

## 2-10 松倉城

〈県指定〉昭和 31 年 11 月 14 日

〈所有者〉高山市

〈所在地〉松倉町城山 2059 番地

〈時代〉室町時代（16 世紀）

〈員数〉台帳面積 7,342 m<sup>2</sup>、実測面積 4,330 m<sup>2</sup>

山城 本丸跡 520 m<sup>2</sup>、外 300 m<sup>2</sup>

二之丸跡 830 m<sup>2</sup>

三之丸跡 770 m<sup>2</sup>

高山市街の西南、標高 856.7m の松倉山頂に構築された山城である。高山盆地を眼下に見下ろし、北は越中、南は岐阜、東は木曾、西は郡上に通ずる街道を一望のうちにおさめることができる。

本丸 内曲輪<sup>くるわ</sup>の 4 方と外曲輪の西側・南側に石垣が現存する。

二之丸 本丸東にあり、南側に旗立石と俗称する巨岩がある。東側・南側に石垣が残存する。

三之丸 本丸南にあり、西側・南側に石垣、西南隅に 1 段高く角櫓跡<sup>すみやぐら</sup>がある。

南中間櫓 二之丸、三之丸の中間にあり、三之丸より 1 段低く、東・南・西に石垣が現存する。

出丸 本丸西方 1 km、現在松倉観音を安置する。

北麓<sup>ほくろく</sup>に城下町を経営したらしく、元禄検地水帳に町屋敷の名が見え、現に古町・馬場と呼ぶ小字がある。また、山中数カ所に家中屋敷と見られる大小の平地がある。

「飛驒の里」吾神池<sup>ごがみ</sup>に注ぐ溪流をさかのぼるのが搦手<sup>からめて</sup>（常の大手）で、下の七曲道と奥の七曲道があった。大手は、南方向の千島町奥エチゴから登る。山下城（三木自綱<sup>よりつな</sup>娘婿<sup>むこ</sup>三木三沢居城）との連絡路であった。

永禄年間（一説天正 7 年）三木自綱が築城し、桜洞を冬城、松倉城を夏城と称した。天正 13 年（1585）金森長近・可重<sup>ありしげ</sup>父子が南北両面から飛驒に攻め込んだ時、自綱は田中城に籠り、2 男秀綱に松倉城を守らせたが、自綱まず敗走し、次いでこの城も、家臣の返り忠により閏 8 月 6 日ついに落城した。

### 参考文献

『高山の文化財』183～184 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年